

## 宇城市立郷土資料館が新しくオープン 郷土の歴史を集約



学芸員による展示物の説明に聞き入る来館者たち

7/21 郷土資料館がオープンしました。同館は、豊野郷土資料館を改修し、市内3つの資料館（豊野・松橋・小川）を統合したものです。旧石器時代から昭和までの石器や古文書、民俗資料など100点以上が時代ごとに展示されており、宇城市の成り立ちを体系的に知ることができます。

オープン初日には、学芸員による展示物ガイドもあり、来館者は熱心に聞き入っていました。家族で訪れていた戸高桃子さん(15)＝熊本市＝は「浄水寺の石碑の拓本などを見ることができ、興味を持った」と宇城市の歴史に親しんでいました。

## 初コラボ 中央図書館と蔦屋書店小川町が「夏に読みたい本」を企画 夏休み あなたは何冊読みましたか

7/21～8/30 中央図書館と「蔦屋書店小川町」が初めて共同企画した「夏に読みたい本」が開催されました。読書への関心を高めてもらおうと、夏休み期間に合わせて企画したもので、「蔦屋書店小川町」の店員が選んだ本を中央図書館へ、図書館の司書が選んだ本を「蔦屋書店小川町」へそれぞれ設置。特設コーナーに児童書・一般書各30冊が並びました。蔦屋書店小川町の伊佐剛副店長は「同じ本を扱っている者として、前からやりたかった企画。選書には苦労したが、図書館の本も多く貸し出されたようでうれしい」と話していました。



1 蔦屋書店小川町と2 中央図書館の特設コーナー

## うきのわ復興夏祭り 楽しみながら災害を忘れずに



1 アルミ缶を重ねて炊飯 2 皆で楽しんだそうめん流し

7/22 豊野町の光照寺で、復興夏祭りが市民グループ「うきのわ」(糸山公昭代表)の主催で行われ、市内外から約250人が参加しました。これは「いつ起こるか分からない災害に備えて訓練が必要」との思いから、祭りと防災訓練を兼ねて市女性消防団や地元婦人会などの協力で実施されたもの。アルミの空き缶で米を炊く「サバ飯」(サバ: サバイバルの略)体験や、災害救助用炊飯袋による炊き出しなどが行われました。糸山代表は「熊本地震から2年が経つが、災害に対する備えを忘れないようにしていきたい」と意気込みました。

詳しい内容は、市ホームページで読むことができます。



## 青海小の児童が三角町浄水場と石打ダムを見学 ダムの内部まで深く学んでみよう

7/10 青海小の4年生16人が、三角町浄水場と石打ダムを訪れました。

これは、生活用水について学ぶ社会科学習の一環。この日は、上水道施設を見学しました。石打ダム内部の監査廊を見学した児童たちは、ダムの大きさと涼しい環境に驚きながら、ダムが果たす役割を学んでいました。市が管理する浄水場では、ダムから送られた水をろ過する装置などを見学。児童たちは職員に質問しながら、水の大切さについてしっかり学んでいました。

◆見学団体募集中! 三角支所経済課 ☎53-1111



ダムの監査廊を進む児童たち

## 宇城市子ども会育成者連合会がそうめん流し 涼やかな夏の風物詩で交流を



冷たい夏の味を楽しみました

7/15 松橋公民館で、そうめん流しが開かれ、親子18人が参加しました。

これは、「宇城市子ども会育成者連合会」が各地域で活動している子ども会同士の交流を目的に開催したもの。

参加者は、館内で親睦を深めるゲームを楽しんだ後、みんなでそうめんをゆがき、下準備。

ゆがいたそうめんは竹樋に流され、みんなで箸を伸ばしながら、おいしそうにそうめんを頬張っていました。かき氷やスイカ割りなどでも楽しい夏の思い出をつくり、交流を深めていました。

## 小川工高生が宇城地域療育センターの子ども用椅子を製作 笑顔で椅子の引き渡し式

7/18 小川工高で、生徒が作った椅子の引き渡し式がありました。これは、宇城地域療育センターが子ども用の椅子5脚の製作を同校に依頼し、建築製作部の生徒5人が完成させたもの。

式では、同校の原田茂校長が「依頼に応え地域に貢献することは、生徒にとってとても良い機会になった」とあいさつ。その後、センターの職員に生徒から椅子が手渡されました。2年生で副部長の中本健心さんは「いつもは使わない素材だったので、作業の時に少し緊張した。大事に使ってもらえるとうれしい」と話していました。



笑顔で椅子が手渡されました

## 「民謡民舞少年少女全国大会」出場の貞方崇寛さん・奥村香奈さんが市長らを表敬訪問 伸び伸びと響き渡る歌声

7/24 8月11日・12日に東京都で開かれた「民謡民舞少年少女全国大会」への切符を手にした松橋中2年の貞方崇寛さんと松橋小4年の奥村香奈さんが市役所を訪れ、守田憲史市長、浅井正文副市長、平岡和徳教育長らを表敬訪問しました。2人が大健闘した大会は、小中学生の民謡日本一を決定する全国大会。2人は大会の曲目、「八代おざや節」、「牛深ハイヤ節」を情感たっぷりに唄い上げ、自慢のこぶしを市長室に響かせていました。守田市長は「多くの人に聴いてもらいたい素晴らしい歌声」と絶賛しました。



奥村さん(左から2番目)と貞方さん(左から3番目)

## 松橋大野貝塚発掘調査現地説明会 竪穴住居跡を公開



竪穴住居跡の説明を受ける見学者たち

7/28 松橋中の敷地内で発見された竪穴住居跡7軒や土器などの見学会を市教育委員会が開き、住民ら約80人が訪れました。この集落跡は、熊本地震で被災した同中体育館の建て替えに伴う新武道場建設の調査過程で発見。古墳時代中期のもので、この地域の首長墓である「松橋大塚古墳」の北東250mに位置することから、古墳との関係を考える上で重要な発見となりました。歴史に興味があるという村井孝子さん(68)＝松橋町＝は「歴史の上に今の私たちが暮らしているのだと実感した」とにこやかに話しました。

## 宇城市舗装工事組合ボランティア活動 炎天下、献身の汗

7/28 宇城市舗装工事組合(吉田卓也組合長)が豊野町の市道安見・六ツ枝線(通称フルーツロード)の路面補修を行いました。これは、地域貢献を目的に毎年実施しているボランティアの一環。同組合に加盟している市内7業者から24人が参加し、作業に汗を流しました。今回補修したのは、舗装が傷んでいた4カ所。組合員は炎天下で、補修部分にアスファルトを敷き詰め、機械で押し固めていました。吉田組合長は「日頃工事でお世話になっている地域のために、道路を安全に使用できるように守っていききたい」と話していました。



アスファルトを敷き詰める組合員の皆さん

## サテライトしらぬい荘で「茶話会」開催 地域から一人の孤立者も出さないことを願って



1 近況報告をする参加者 2 腸内環境についての学習会

7/22 松橋町のサテライトしらぬい荘地域交流室で「茶話会」が開かれ、曲野区の大野橋・左近田・宮ノ下地区の70～90代の約40人が参加しました。この会は、高齢者が住み慣れた地域で生涯安心して暮らせるように世話人会の高野和幸さんら14人が毎月開催しているもの。参加者全員の近況報告や、学習会、出し物などを行っています。高野さんは、「認知症の人や障がいのある人は地域とのつながりが薄く、孤立しやすい。交流を深め、この地域で一人の孤立者も出さないようこれからも開催していきたい」と話しました。

## 市内中学生による子ども議会 初登壇でも堂々と質問

7/26 市内5校の中学生による「子ども議会」が市役所で開かれ、生徒21人が1日限りの子ども議員として一般質問を行いました。

市の仕事や市議会に関心を持ってもらおうと市教育委員会が主催。9年ぶりに再開した昨年に引き続き、今年も開催しました。子ども議員たちは、少子高齢化対策や観光客の増加への取り組み、放置自転車対策、道路整備などまちづくりに関するものから、いじめ対策、電子黒板やデジタル教科書の普及についてなど生徒が直接関わる問題まで多岐にわたる質問を投げ掛け、守田憲史市長や平岡和徳教育長らが答弁を行いました。議長を務めた田尻大遥さん(不知火中3年)は「普段使わない言葉を使い、進捗が難しかったが、真剣に答弁してもらってありがたかった」と微笑みました。



1 「はい!」と大きな声が響き渡りました 2 家族や先生、議員らが傍聴席から見守っていました 3 笑顔で記念撮影

## 鎮守の杜 松橋神社の夏の例大祭 受け継がれる伝統



子どもみこしが神社から商店街を練り歩きました

7/31・8/1 五穀豊穡<sup>ほうじょう</sup>を願い、唄<sup>うた</sup>や踊りを神に奉じる松橋神社の夏の例大祭が同神社一帯で開かれました。これは、969年続く同神社の伝統行事。初日には、威勢のいい子どもみこしが神社から松橋駅前の商店街を練り歩き、境内では仲町の茶わん鉢保存会などによる奉納演芸が披露されるなど訪れた人たちを楽しませていました。商店街にも出店が立ち並び、バンド演奏なども行われていました。同神社総代会の門垣幹夫<sup>かどがき</sup>会長(72)＝松橋町＝は「この祭りが熊本地震からの復興や市の活性化につながれば」と話していました。

## 「小川工業高校 小学生ものづくり教室」 ものづくりの楽しさを伝え、育む



プログラムが思い通りに動いて、一緒ににっこり

8/2 小川工高で小学生ものづくり教室が開かれ、河江小の6年生12人が参加しました。ものづくりの楽しさを体験し、新しい技術への夢を小学生に育んでもらおうと同校が企画したもので、5回目の開催。マイコン制御部の部員たちが、小学生に優しく指導しながら、プログラムでセンサーが白線を認識し自動で走るロボットカーを作製し、レース大会を行いました。最速タイムを記録した吉岡涼太君は「プログラムやロボットカーの調整が難しかったけれど、高校生が優しく教えてくれてうれしかった」と笑みがこぼれました。

## アグリパーク豊野「夏休みだよ 全員集合!!」 夏休みの楽しい思い出がまたひとつ



「何等が当たるかなあ♪」ドキドキのペットボトル釣り

8/4・5 アグリパーク豊野(福島賢一郎支配人)で「夏休みだよ 全員集合!!」が開かれ、多くの家族連れなどでにぎわいました。子ども向けのイベントとして開催しているもので、今年で3回目。4日には、スイカ割りなどが行われ、目隠しをした子どもたちに、会場からは「右!!」、「たたいて!!」などと声が飛び交っていました。5日には、バルーンパフォーマンスや、花火などの賞品が当たる「ペットボトル釣り」も行われ、子どもたちにとって楽しい2日間となりました。福島支配人は「夏の思い出をつくってもらえた」と笑顔でした。

## 農村環境保全 小川町の農業者と住民共同で EM ボカシ作り

7/28 地域の水質保全のため、小川町土地改良区や農業者、地域住民、ボランティア団体、子ども会など約30人が恒例の EM ボカシ作りを行いました。これは、同町内の農業用水の水質保全のために、EM 団子をため池や水路に放流する活動。この日は、米ぬか90キログラムに EM 活性液を混ぜる作業を行いました。

毎年参加している人たちは、慣れた手つきで作業。今年初めて参加した、認定農業者女性部の一人は「EM ボカシの作り方がよく分かった。次回も参加したい」と話していました。



米ぬかと EM 活性液をよく混ぜ合わせます

## 第23回不知火海伝馬舟競漕<sup>てんませんきようそう</sup>大会 待ち望んだ大会、3年ぶりに復活

7/29 不知火町の松合新港で不知火海伝馬舟競漕大会が開催されました。

これは、地域の櫓こぎ文化の継承や仲間づくりなどを進めようと同大会実行委員会が主催したものの。熊本地震で被害を受けていた堤防がようやく復旧し、3年ぶりの開催となりました。

今大会では、手こぎ一般男子、同一般女子、同小学生、櫓こぎの4部門に地元企業や地域グループなど49チームが出場。各チーム、おそろいや工夫を凝らした衣装で舟に乗り込み、観客の声援を受けながら一生懸命に舟をこぎ進めていました。



大きな声援を受け、子どもたちも一生懸命こぎました

## 泰明電機株式会社<sup>たいめい</sup>が寄付金贈呈 新工場建設の恩返しを

7/31 泰明電機株式会社(熊本市中央区)の石坂敏明代表取締役社長ら3人が、寄付金贈呈のために市役所を訪れ、守田憲史市長に寄付金を手渡しました。

これは、配電盤製造や電気工事を行う同社が、6月末に松橋町古保山に新工場を建設したことから、宇城市に貢献できればと寄付を行ったものです。石坂代表取締役社長は「工場が完成したのは、市民の皆さんのおかげ。少しでも恩返しができれば」と話していました。守田市長は「大切にに使わせていただきます」とお礼を述べました。



寄付金を贈った石坂敏明代表取締役社長(中央)

## 内田いのべ会「ヤマメのつかみ取り大会」 水しぶきと歓声を上げて

8/12 松橋町内田区を流れる内田川でヤマメのつかみ取り大会があり、大勢の家族連れでにぎわいました。これは、内田の清流に親しんでもらおうと、内田いのべ会(谷口泉実行委員長)が企画したもので、昨年に引き続き2回目の開催。

網で仕切った川にヤマメが放たれると、子どもたちは水しぶきを上げながら、ヤマメ取りに大奮闘。川遊びの楽しさを体験しました。初めて訪れたという豊福小3年の中村友星君は「ヤマメ3匹とカニ2匹を捕まえることができてうれしかった。ヤマメはぬるぬるしていた」と笑顔を向けました。



川の茂みにうまく追いついてヤマメをつかみました

## 市長とのランチタイム「うきうきランチミーティング」vol.14 宇城市商工会の皆さんと市の活性化について話し合う

8/7 生活に密着した意見や提案などを市政に生かそうと行われている市長とのランチミーティング。宇城市商工会の坂本順三会長など9人が市長室を訪れ、企業誘致やイベントなど、市の活性化についての意見を交わしました。平成28年度から実施しているコノシロ消費推進事業についての説明も行われ、市で一番の水揚げ量を誇るコノシロのブランド化を図るため、同会が考案した公認キャラクター「コノシロ部長」を活用した宣伝活動やLINEスタンプの販売など、広報活動に取り組んでいることなどを紹介しました。



昼食を兼ねたミーティングで前向きな意見を交換

## 地域の行事や隠れた魅力などをレポート 広報特派員レポート 宮川 勝 特派員 編

## 篠崎造船鉄工所進水式・戸馳大橋架け替え工事 三角町よりー海・工事に関するおはなしー

7月4日、三角町戸馳の篠崎造船鉄鋼所で、499トン型の油専門の貨物船「第二十一宝勢丸」の安全祈願神事が行われ、関係者や住民など多くの人が訪れました。

船上から行われた餅投げでは、訪れた人たちが餅を懸命につかみ取ったり、みすみ保育園の園児たちなども楽しそうに餅を拾ったりしていました。

進水式では、船の着水の瞬間を固唾をのんで待っていた関係者や住民らが、無事に着水するのを見届けると、割れんばかりの拍手を送っていました。



安全祈願神事が執り行われました

8月3日と10日に、来年4月に完成予定の戸馳大橋の工事現場を見学してきました。

連日、最高気温が35度を超える暑い日が続く中、工事は着々と進行していました。

陸からはクレーン車、海からは船上クレーンを使って資材搬入しているところや、生コンクリートを橋に注入しているところなどを見ることができました。

暑い中、現場では作業員の皆さんが懸命に作業を行っており、完成まで無事に工事が進むことを祈るばかりです。



生コンクリートの注入作業が行われていました

## 「うきモビ」オープニングセレモニー もっと自由に観光しよう



左からシェアサイクル、超小型モビリティ、セグウェイ

8/10 市が三角東港広場で「うきモビ」のオープニングセレモニーを行いました。「うきモビ」とは、超小型モビリティ、シェアサイクル、セグウェイの乗車体験が三角東港で体験できるサービスの総称で、この日からサービスが開始されました。このサービスにより、公共交通機関で三角を訪れた観光客が、三角西港などの観光地を今までよりも柔軟に周遊することができるようになります。セグウェイの乗車体験をした富永章子県宇城地域振興局長は「セグウェイは海辺を散策するのに最高。多くの人に体験してもらえたら」と話しました。

## 「ザ・キャビンカンパニー」によるワークショップ みんなのへんてこいきものずかんをつくろう

8/11 絵本作家として活躍する大分県の阿部健太郎さんと吉岡紗希さんの夫婦ユニット「ザ・キャビンカンパニー」によるワークショップが不知火美術館で開かれ、32人が参加しました。参加者は布や絵の具などを使って「へんてこいきもの」をダンボールに描き出し、作品を完成させました。

祖母と参加した島田玲愛さん(8)＝福岡市＝は「Tシャツから猫が飛び出した夢を見て、それを作ってみた」とにっこり。祖母の島田梅子さん(64)＝松橋町＝は「子どもの頃に体験したかったと思える楽しいイベントだった」と話していました。



作者本人による絵本の読み聞かせもありました